

介護福祉学科

カリキュラム・ポリシー <CP>（教育課程編成・実施の方針）

専門性の高い介護福祉士を養成するために、指定規則にある「人間と社会」「介護」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」の4領域を学習します。

「5つの到達目標」に関連する科目構成と達成するための工夫

- 1) 介護福祉士の仕事は人間を対象とする。なかでも高齢者や障がい者と接する機会が多い仕事であるため、対人援助技術が重要である。したがって、社会の中での人間を捉え、人との関わり方を重視し、自己の感性を高めていくとともに、相手の立場に立って考える力や信頼関係の構築に役立つ科目構成としている。
- 2) 介護福祉学の確立を目指し、理論的根拠を学び、実際の応用能力が得られるように授業内容を工夫している。介護予防や地域包括ケアが重視されている社会に応えることができるようにしている。
- 3) 介護の倫理観を養い、個別的な生活課題(ニーズ)に応えることができるように、生命や生活に関連した科目構成としている。
- 4) 幅広い視野に立つためには、介護や福祉の理念や生活に関連する法律についての知識も必要になる。介護福祉士として対象者の尊厳と権利を守ることができる科目構成としている。
- 5) 地域に開かれ、地域に密着した教育をしていくために、学生が地域から学び、地域での活動の輪を広げて実践できるような科目構成としている。地域において介護実践力を高められるよう、多職種との連携も配慮した科目構成にしている。
- 6) 介護実践能力を高めるとともに、研究的な能力を育成するために、介護現場で学んできたことを振り返り、まとめていくことを大切にしている。介護実習終了後には、実習のまとめを行うとともに、2年次には介護研究に取り組み、その成果を発表している。